

2020.1.21 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位
大阪科学・大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

**立命館大学アジア・日本研究所主催ワークショップ
「イラン核危機と朝鮮半島核危機の比較考察」開催**

日時：2020年2月2日(日) 12:30~17:30

会場：立命館 大阪梅田キャンパス

立命館大学アジア・日本研究所は、主に研究者を対象としたワークショップ「イラン核危機と朝鮮半島核危機の比較考察」を開催いたします。

2020年に入り、米国とイラン間の緊張がより一層高まっています。米国によるイラン核合意破棄以降、米国主導によるイランに対する経済制裁や軍事的な圧迫が観察されてきただけでなく、相互に武力を行使する局面に至っています。一方で、北朝鮮と米国との関係は、2018年に史上初の首脳会談以後関係が改善されたものの、現在交渉が膠着状態にあり、緊張の再形成も予想されています。これらの核危機ともいえる緊張のさらなる高まりは、エネルギー問題を含む安全保障の観点から日本にも影響が出ることが予想されます。

本シンポジウムでは、イラン研究の第一人者である田中浩一郎氏(慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授、前・日本エネルギー経済研究所理事兼中東研究センター長)、朝鮮半島研究の権威である高有煥氏(東国大学校 北韓学科教授、韓国国政諮問委員会 諮問委員長)などをお招きし、それぞれの専門家から研究発表を行ったうえで討論を行うほか、各地域の核危機について比較考察を行います。中東・アジアを取り巻く現状を把握するとともに、世界平和に向けて、社会的理解を深める機会となれば幸いです。

記

開催日時：2020年2月2日(日) 12:30~17:30 (受付 12:15~)

会場：立命館 大阪梅田キャンパス 5階

対象：主に研究者を対象としていますが、どなたでもご参加いただけます。(定員:30人)

プログラム：別紙をご覧ください。

言語：日本語 ※一部、逐次通訳あり

参加費：無料

申込方法：事前参加登録フォーム(<https://forms.gle/Gfeq1bFwUAn4EsQT6>)にご入力いただくか、choi-j-h@fc.ritsumei.ac.jp(担当:崔)までご氏名、ご所属、お電話番号、メールアドレスをお送りください。

主催：立命館大学アジア・日本研究所

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学 衣笠リサーチオフィス
担当:岡本・福野 TEL. 075-465-8224

別 紙

[プログラム] ※敬称略

12:30～12:40

開会のあいさつ:小杉泰(立命館大学アジア・日本研究所 所長)

12:40～14:15

第1セッション「イラン核危機における緊張形成についての分析」(司会:小杉泰所長)

①報告:田中浩一郎(慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授)

「イランの内部論理と対米認識について/イラン核危機の日本への影響(案)」

②報告:近藤百世(公益財団法人中東調査会 協力研究員)

「イラン核合意の形成と破綻プロセスについて」

③討論:戸崎洋史(日本国際問題研究所 軍縮・科学技術センター主任研究員)

④質疑応答

14:25～16:00 ※日韓逐次通訳/ウイスパリング

第2セッション「朝鮮半島核危機における緊張形成についての分析」

(司会:中戸祐夫 立命館大学 国際関係学部教授)

①報告:崔正勲(立命館大学アジア日本研究所 専門研究員)

「朝鮮半島核危機の形成プロセスについて」

②報告:高有煥(東国大学校 北韓学科教授、韓国国政諮問委員会 諮問委員長)

「北朝鮮における統治論理と核兵器保有の動機」

③討論:文京洙(立命館大学 特任教授、アジア日本研究機構 副機構長)

④質疑応答

16:10～17:20

ラウンドテーブル「イラン核危機と北朝鮮核危機の比較考察」

(司会:文京洙)

①発題:中戸祐夫

②発題:戸崎洋史

③コメント:田中浩一郎

④コメント:崔正勲

⑤ディスカッション

17:20～17:30

閉会のあいさつ